第６回　練馬区基本構想審議会
議事概要（確定版）

日時：平成 20 年 9 月 24 日（水）午後６時 30 分～８時 40 分
場所：練馬区役所本庁舎５階　庁議室

<<議事次第>>

１．開会
２．めざすべき将来像・取組の方向性等の検討
３．その他
４．閉会

<<出席者（五十音順）>>

秋元和子、秋山哲男、浅野祐介、岩崎久美子、大杉覚、大屋幸恵、高橋徳行、
沼田美穂、林真未、三澤ちづ子、村松昭、山口不二夫、若井治子（以上 13 名）

<<欠席者（五十音順）>>

伊藤勝、上野定雄、本山裕一（以上３名）

<<傍聴者数>>

７名

１．開会

■会長

・ただいまから第６回練馬区基本構想審議会を開催する。事務局より委員の出席状況等について報告をお願いしたい。

■事務局

・13 名の委員が出席していることから、会議が成立していることを報告する。

・本日の傍聴者は７名である。

■会長

・本日の審議の前に８月 25 日に開催された第５回審議会の議事概要の確定を行いたい。

・事務局から事前送付した速報版からの変更点などについてご報告いただきたい。

■事務局

・事務局発言部分について脱字を補ったことと、「直近の決算」という表現を「平成 20 年度の決算」としている。

・また、10 ページについて、「その他」の前の発言の３行目の避難拠点運営連絡会については、正確には全区立小学校・区立中学校に設立されているため、そのように訂正したい。また、「世代間の意見対立が～」という表現について、「世代間」は「住民間」に修正してはどうかというご意見をいただいている。

■会長

・今の点についてご意見がないようであれば、現在の修正を含めて確定としたい。

・次に、本日に進め方についてであるが、前回までの検討結果をもとに、11 月に予定されている「中間のまとめ」に向けて委員間でさらに議論を深め、意見を集約して方向性を出していきたいと考えている。そのため、本日の議論は、「中間のまとめ」の構成イメージの共有と内容の大枠についての合意形成を図ることを目標としたい。

２．めざすべき将来像・取組の方向性等の検討

■事務局

－第６回審議会配付資料１～４に基づき説明

■委員

・議論の大前提として、資料１にも示された内容であるが、この「中間のまとめ」の構成をどのようにするかについて議論したい。

・その上で、「基本理念」と「分野別の目標」、「将来像の実現のために」といったそれぞれの内容について個別にご意見をいただきたい。

■委員

・分野別の目標を四つに整理することで全体像が分かりやすくなった。しかし、たとえば子育て世代で同時に生活困窮の問題を抱えている家庭など、分野横断的課題に対応できる視点も必要ではないか。

■会長

・４分野の示し方とは別に、別の視点からつながるような表現ができないのかというご指

摘であり、いわゆるマトリックスのような分野表現が考えられるだろうか。

■委員

・「基本理念」については３項目掲げられており、その具体的な説明もなされている。一方で「分野別の目標」では４項目になっており、さらにその中で重複しているものがあるため、関連性が分かりにくい。

・基本理念については、項目ごとに具体例を挙げるのではなく、端的に表現した文章を掲載した方がよいのではないか。

■会長

・基本理念と言いながら具体的な項目が挙がっているという指摘だと思うが、事務局側でも改めてご説明いただきたい。

■事務局

・ご指摘通りであるが、キーワードだけではその内容が分かりにくいと考え、それぞれの具体的な視点として提示したものである。

■会長

・大きな構成として４つのパーツがある。まずは、この構成についてご意見があればお願いしたい。

・基本理念については、その内容が各分野別の目標に生かせていないといった問題もあると思う。

■委員

・基本構想の内容としては、お金の流れ、すなわち、いかに歳入を増やしてサービスを充実させるかということも記述するものだと思うが、歳入については記載せず、サービス提供、すなわち歳出についてばかりが記載されているように思うが、そういった内容で問題がないのか。

■事務局

・法律上基本構想に盛り込むべきものとして定められているのは、総合的・計画的な行政運営を図る、ということであり、その中には財政的な内容も含まれると考えている。

・財源の確保については、最後の「将来像の実現のために」として記載している。いずれにしても、基本構想は将来像を示しその将来像を実現するために何をすべきかを記載するものであるため、財源の確保は重要な課題であると認識している。

■委員

・基本理念は、施策を立案する上での重視した方がよい、もしくは守るべき項目であると理解した。

・たとえば、「支えあい」についてはコミュニティの形成に資する施策展開を図るといった、全体としてより踏み込んだ表現であってもよいのではないか。

・また、理念の中には「みどり」や「環境」といった内容が盛り込まれてもよいのではないか。関連する内容としては、まちとしてバランスをもって発展していくべきであるといった内容を盛り込むべきではないか。

■会長

・抽象的なものよりは、練馬区の特徴を表す、分かりやすく直接的な表現のほうがよいのではないかというご指摘かと思う。

・また、内容について議論すると、将来像との関係性も重要となる。今のご意見については、将来像の中に盛り込まれる内容として整理することもできる。

■委員

・阪神・淡路大震災の復興まちづくりをみても、まちづくりはものづくりだけでは進まず、住民の果たす役割の重要性が明確になっている。

・区民懇談会の場でも、区民のつながりが重要であるとの議論があったように思うため、「支えあい」をもう一歩進め、「参加と支えあい」など、区民が主役であることが分かるようなものにすべきではないか。

■会長

・全体として、構成そのものに違和感があるというご意見はなかったように思う。そのため、内容の議論を進めたい。

・まず、「基本理念」の内容について引き続きご議論いただきたい。

■副会長

・一点確認させていただきたい。めざすべき将来像について区民から提案を募集すると記載しているが、パブリックコメントを実施する予定はあるのか。

■事務局

・現在の基本構想を策定した段階でも、区民から募集したと聞いている。区民の提案をそのまま活用するということまでは想定していないが、区民や庁内職員から提案を受けた内容をベースとして、この審議会でキャッチフレーズを検討していただきたいと考えている。

・中間のまとめの段階で案としてお出しいただくこともやぶさかではないが、他の箇所の議論も必要であるため、時間的な制約から後ほど議論した方がよいのではないかと考えた。

■副会長

・基本理念という重要なところを最初に決めるのは難しい。

・キャッチフレーズや分野別の目標を検討したうえで、それらを網羅できるようなキーワードを定めるという方法もある。

・基本理念を検討しつつ将来像も議論をしていった方がよいのではないかと思う。

■委員

・構成についてであるが、「１．基本理念」「２．めざすべき将来像」に続いて「４．将来像の実現のために」となるとストーリーがつながるが、「３．分野別の目標」については資料的な要素が強いのではないかと思う。そのため、全体の順番を入れ替えた方がよいのではないか。

■委員

・5 月 20 日の練馬区基本構想審議会の資料２では、「めざすべき将来像」が最上位にあり、

その下に理念と分野別将来像が展開される構成となっている。本日資料ではこの順番が変わっているが、その理由は何か。

・この資料に基づけば、基本理念についてはめざすべき将来像の次に、誰もが分かりやすいキーワードとして掲載すべきではないか。一方で本日の資料では、項目を整理してしまっているため、将来像や分野別の目標との関連性が分かりにくくなっているように感じる。

■事務局

・どういう考え方を大事にするのかを明示したうえで、将来像を提示し、それを実現するために個別的な目標を記述するという論理展開で整理している。また、他自治体でも比較的こういった構成の事例が多い。

・構造としては、分野別の目標の集合体としての「めざすべき将来像」があり、基本理念はその土台に当たるものであると理解している。

・区民懇談会でも基本構想審議会でも分野横断的な取組を推進する必要があるというご指摘をいただいているため、こうした内容を基本理念に盛り込みたいと考えている。

■委員

・「めざすべき将来像」と「基本理念」が「分野別の目標」を横断的に補完するものであると理解した。

・「基本理念」をキーワードとして付加するのであれば、「将来像」を最初に持ってきたうえで、理念という名称ではなく、分野横断的な視点として提示してはどうか。

■委員

・区民にどういうことを伝えたいかという概念がまずあるべきであり、その内容が基本理念に含まれているべきではないか。

・それが、今回の項目では、名称があまりに具体的すぎるため、分野別の目標と紛らわしいが、基本理念の（１）については「人の関係がどうあるべきか」、（２）については「暮らし方がどうあるべきか」、（３）は「どのような“まち環境”でありたいのか」ということを提示しているように読め、この点を分かりやすくすれば、練馬をどうしたいのかという点が明確になるのではないか。

■会長

・今までのご指摘は、めざすべき将来像に関する共通コンセプトとしての基本理念を提示するまとめ方か、事務局案のようにまとめる方法がよいのか、といったご指摘であると思う。一般的にはどちらもありえるだろう。また、個人的には、「めざすべき将来像」として提示できるのか、という問題もあると思う。

・基本理念として、「支えあい」という空間的な視点と「次世代への継承」という時間軸の視点といった二つの視点が含まれていることに加えて、「安全安心」という異質な内容が入っていることも、全体像を分かりにくくしている要因ではないか。

■委員

・区民懇談会で、めざすべき将来像については相当議論し、審議会でも議論しているが、あらためて区民からの意見募集も行うことになるのか。

■会長
・それに関連して、具体的な将来像検討の手続きを説明していただきたい。
■事務局
・区民懇談会としては、区全体ではなく分野別の将来像をご議論いただき、それをベースとして審議会でご議論いただいていると理解している。
・この「めざすべき将来像」は端的に分かりやすいキャッチフレーズを想定しており、より広く区民と内容を共有するためにも、広く意見を募集し、それを踏まえて審議会でご検討いただく方法がよいのではないかと考えている。
■委員
・今までの議論を区民が踏まえたうえでさらに意見を募集し、それをもとにさらに議論することは時間的にも可能なのか。
■会長
・流れとしては、区民の意見を踏まえて再度議論することになるだろう。
■委員
・基本理念は、なぜ基本構想が必要であり、どういった観点で基本構想を策定したかを提示すべきであり、本資料のような具体的な内容は、「分野別の目標」の項目に盛り込むべきものではないか。
■委員
・基本理念については一度置いておき、将来像以降を議論したうえで、理念として残すのか、その他の内容に盛り込むのかといった点を議論してはどうか。
■委員
・基本構想では、練馬区としてどうあるべきかをどこかで提示しないといけないのではないか。現行の基本構想がそのまま使えると感じるような内容では新しくする意味がない。
・めざすべき将来像については、この場だけで議論して決定することについて若干の不安があり、区民の意見を幅広く募集することはよい方法ではないだろうか。
■委員
・「中間のまとめ」の全体ボリュームについてどのように考えているのか。
■事務局
・特に想定しているものはないが、区民の方が読んで分かりやすいと感じるボリュームにしたい。
■委員
・全体としてきれいにまとまりすぎているように感じた。
・これからは区民が参加してつくりあげる区政であるべきであり、区民が参加していると思えるような基本構想ができるとよいように思う。
■委員
・都市を総合的につくりあげているという意識が、パリでもロンドンでもある。たとえば、具体的には「市民がプライドをもてるまちをつくりあげるためにはどうすべきか」とか、「環境共生のためにどのような手順で進めるべきか」を考えている。

・今回のたたき台では、たとえば「環境と共生した魅力あるまち」とあるが、具体的に何から取り組むのかという優先順位が見えてこない。都市交通や土地利用が一体的に整理されているため、まず何から取り組むべきかを明らかにすべきではないか。
・P8 に「区民と区との協働による」とあるが、協働でできることと、区でしかできないこともある。
・ロンドンで、ある NPO が倒産したが、その NPO が提供していたダイアルライド（高齢者向けの交通政策）の公的な実施が選挙公約であったため、これを行政が一括して引き受けた、というような事例もある。
・また、パリでは地方分権の取組が進んでおり、その成果を上げている。高齢者でも乗車できるような STS（special transport system）を提供するという政策や評価を行うという政策を行っている。
・さまざまな方法があるとは思うが、何が練馬区の特徴なのか、練馬区としていったい何をやりたいのかが見えない。

■会長
・基本構想と基本計画をつなげるためにも、重点的に何をするのかを提示することが重要であり、そういったことを考えると今の構成でよいのだろうか。
・キャッチフレーズはキャッチフレーズであり将来像ではない。練馬区ならではの将来像を示すとするならば、分野別の目標の中で示すことになるのではないか。
・めざすべき将来像が中途半端な位置づけになっているため、皆さんが違和感をもっているのではないかと思う。
・今までの議論を整理すると、基本的な考え方を示すということと、練馬という地域でどのような地域づくりを進めるかを提示すべきであるように思う。
・そのため、個別の分野でもかまわないので、何を重視すべきか、練馬区としてこういうものを入れたい、ということについてご意見をいただきたいと思う。

■委員
・先ほどの委員のご意見と会長のご意見の整合性が分からない。
・めざすべき将来像については今後検討していくということであるが、めざすべき将来像をはっきりさせてから、他の内容を検討するほうが分かりやすいのではないか。

■会長
・分野別の目標に提示されている内容が、もう少し肉付けされて将来像として提示されるのではないかと思う。

■委員
・本日の資料は領域をすべてカバーしているが、それはベーシックな部分であり、その上で、特に練馬区として強調すべき部分を明確にしたうえで再構成しないと、実効性を持たないのではないか。
・ただし、その「強調すべき部分」はこの審議会で決定すべきかどうかは要検討であろう。区長の思いから決める場合もあるし、企画セクションが決める場合もある。

■会長
・答申案として、審議会である程度決定する必要があるのではないか。
■委員
・基本構想は、単純で、分かりやすい言葉で、理解できるような言葉である方がよく、その上で具体的な政策が早く展開できるものであってほしい。
・具体的な戦略が立てられないものを基本構想としても、それは意味を持たず、基本構想の策定後１～２年で戦略がさまざまな分野で組み立てられることが重要である。
■委員
・単純な言葉を今の時点で決められないことが最大の阻害要因になっているのではないか。言葉の表現の仕方はゆだねるとしても、内容についてはある程度決めた方がよいのではないか。
・「つながる」という表現が重要なキーワードではないか。さまざまな分野でのつながりがないことが区民懇談会でも議論されてきたことではないかと思う。
■委員
・基本理念は、迷ったときに重視すべき考え方であると思う。その基本理念は、「コミュニティをつくる」とか「バランスのとれたまちづくり」とか「みどりを重視する」など、より明確に表現するのがよいと思う。
・その上で、練馬区のめざすべき姿は、「人を呼び寄せることができる魅力のあること」が重要なキーワードであるように思う。
■委員
・そのまちをよくする、文化を発展するといったことが重要になるのではないか。
・ある一つの方針について審議会の中で合意をとることができれば、一度すべての政策についてその視点で検証を行うという作業をしてみてはどうか。
■会長
・今のご意見は、基本構想のあり方の根幹に関わるご意見である。
・これまでは、基本構想が最終的に区の施策がつながるからこそ、計画体系のピラミッドの頂点部分として各分野を並列的に提示してきた。それに対して、頂点の部分の示し方を変えてもよいのではないか、というご意見である。
・ある程度の方向性を決定するのに、この審議会形式がよいのかということも含めての検討になるだろう。
■委員
・今は都市間競争の時代であり、他の自治体を引き離すためには、一点突破でがんばるしかなく、そういった内容を盛り込んだ基本構想でなければ、他区との違いを出すことはできない。
・練馬区らしいと思う部分を重点化し、他の部分も底上げするといった形がよいのではないか。
■委員
・区民懇談会でも、どこを重視すべきかを議論してほしいという話があった。どの分野に

特に注力するかが、他区との競争という観点では重要であるので、その点を示すことはよいと思う。

■委員

・環境に優しいまちとすると、そのことによってあきらめなければいけないことがたくさん出てくるのではないか。

・特徴のある内容にすることは非常に先進的でもあり合意ができれば非常によいが、それにより妥協する点まで合意ができるかどうかが重要ではないか。

・最終的には議会が決めるので、突出したものがあれば議決されない可能性もあるが、そういったリスクも含めて考える必要がある。

■委員

・一つの軸を設けることは、すべての施策についてその軸との距離を立体的に検証するということであり、最終的には総合的な施策が盛り込まれることになると思う。

・すべてを並列に記述することで、かえって何も取り組まなくなるというリスクの方を心配している。一つの合い言葉に基づいてすべての主体が取り組みを進めることが、今の時代だからこそ重要ではないか。

■委員

・今の議論をしていると、区民懇談会で議論してきたことが何だったのだろうか、という思いがする。

■委員

・確かに、人をひきつけるまち、魅力あるまちが基本構想のひとつの重要なテーマであると思う。しかし、何らかのテーマの決定を、この場の議論だけでできるのかわからない。トップダウンか、反対にボトムアップという形で区民懇談会の議論を活用するやり方が求められるかもしれない。

■委員

・区民懇談会の区民生活分野分科会では、「みどり」を重視して、魅力のあるまちをつくるという議論をした。

・「区民懇談会で議論してきたことが何だったのだろうか」というご意見があったが、私は区民懇談会の意見を活用することが魅力あるまちをつくるということになると思う。

■委員

・文京区の例では、「文の京」（ ふみのみやこ ）というテーマ性をもって、文教の府と呼ばれた歴史を重要視して基本構想を構築している。練馬区で何か一つのテーマを考えるならば、やはり「みどり」ではないかと思う。「みどり３０推進計画」という練馬の環境施策にも合っているし、区民懇談会の環境まちづくり分野分科会でも、「みどり文化の薫るまち」というキャッチフレーズのもとで、さまざまな議論がなされてきている。その成果を活用することはできるのではないだろうか。

■委員

・みどりのあるまち、というテーマが仮に決まったときに、教育や子育ての分野で、目の前にすぐに解決すべき課題があるにもかかわらず、「みどりを大切にしなさい」という

ことが教育においても重視され、目の前の重要な課題が取りこぼされてしまうという事態が発生しないだろうか。
・現場で活動している人が活動しやすくなるような方針であってほしいと思う。
■委員
・みどりに関して言えば、教育とかけ離れているということもない。子どもたちに農業体験をさせるという計画があり、具体的に動いている。
・支援が必要な子どもたちに対しては、多様な支援のあり方があり、その一つとしてみどりを活用した体験の機会の提供を重視するという考え方ではないか。
・たくさんの登山口を示すよりは、一つの登山口を示しながら、順次さまざまなものを解決していくということができるのではないか。
■委員
・一つの軸を設けるというイメージには賛成であるが、この練馬区のシステムの中で、それがなされたときには、必ずしも理想的な状況で取組が推進されるわけではないと感じている。
・たとえば「みどり」を軸として定めるならば、それが教育を変える原動力になるような取組の方針が必要ではないか。
■委員
・みどりとか災害とか環境・交通は、環境というキーワードで一まとめにすることができるのではないか。
・また、教育とか芸術などは文化というキーワードで一まとめにすることができ、これらを盛り込んだ内容を軸として挙げれば、多くの内容をくくれるのではないか。その二つのキーワードを盛り込んだ内容を軸とすれば、かなりの内容を関連づけることができるのではないか。
・この審議会で決定した後、事務局側で再度調整していただければよいと思う。
■委員
・総花的で分からないというご意見と、一本の軸を通してそれをもとにして体系化してはどうか、というご意見があったと思う。
・今までの議論の成果を踏まえて「中間のまとめ」として審議会の委員が納得できるものになればよいということなのか。
■会長
・時間的な制約もあると思うため、今後のスケジュールをご説明いただきたい。
■事務局
・11 月末に区報で内容を提示した後、12 月に区民と審議会との意見交換会を 4 回開催することとなっている。その結果を踏まえて、１月以降審議会として答申を取りまとめ、３月に答申をいただくスケジュールを想定している。
・その後、区として素案を作成してパブリックコメント等を実施し、21 年第三回区議会定例会（9 月～10 月）において議決していただくということを目途としている。

■会長
・中間のまとめと最終的な答申案、議会に提示する案との関係をご説明いただきたい。
■事務局
・答申は、最大限尊重したうえで区としての素案を作成することになる。
・広くご議論をいただいたうえで最終形にしたいということもあり、取りまとめの段階ごとに区民の意見を聞くことを想定している。
■会長
・審議会としては答申を提示したのち解散することとなるため、その後は、個別の区民として意見を提示することになるのか。
■事務局
・現段階では具体的な内容になっていないが、素案をもとに区民から意見をいただいた段階で、何らかのかたちで審議会の委員からもご意見をいただく場を設置したいと考えている。
■会長
・審議会としての考え方を提示する段階で、ある程度形にする必要があるため、まずは「中間のまとめ」として内容を整理する必要がある。
・必ずしも皆さんのご意見は一致していないが、おおよその方向性は見えてきていると思う。
・事務局としては次回以降どのような議論を想定していたのか。
■事務局
・当初の想定では、中間のまとめの大枠について合意をいただければ、たたき台を元に文書でご意見をいただき、それをもとに事務局で修正し、10 月 18 日の次回審議会でお諮りすることを想定していた。
■会長
・状況が大きく変わっているため、進め方については、事務局と相談したうえで、検討するようにしたい。
■委員
・区民懇談会の代表の方が、その成果が何だったのか分からないと発言したことを非常に重く感じた。
・区民懇談会の成果については、大きく受け止める必要があり、それができないと区民懇談会の方々に徒労感だけを残すことになる。
■会長
・区民懇談会の議論を踏まえるということについては、十分に反映することが重要であると認識している。反映できているかどうかも含めて、審議会に参加している区民懇談会からの委員の方はチェックを行い、ご発言をお願いしたい。

３．その他

■事務局

・会長と相談のうえ構成を再検討し、次回提示する資料を作成する際に、意見提出シートのようなかたちでご意見をいただくようにしたい。

・「分野別の目標」の中では区民懇談会のご意見を反映するように留意しているが、それが見えにくかったということもあり、「分野別の目標」の各項目や理念に、もう少し議論の内容を明確になるような記述をすべきであったと感じている。

・区民の方から寄せられた意見について配付させていただいているが、この内容についてもご留意いただくようお願いする。

■会長

・分野別の目標の骨子とあるが、ここに書かれている内容は区民懇談会で提案していただいた内容であるという指摘であるが、懇談会としては話の流れや考え方が生かされていないという思いだったのではないか。

・そういう意味では、分野別の目標の示し方や基本理念・将来像の内容を考えることが重要だと思う。

■委員

・区民懇談会では、分野別に分けられて議論し、その中でもさらにテーマ別に分けられて議論したために、全体的なイメージを議論していないが、議論の中で「つながり」が共通して重視すべき点として明らかになったのではないかと感じている。

■会長

・今までは分野別の基本構想であったため、そうした議論の進め方をしていたが、その方向性について疑義が出されたわけであるので、再度検討していきたい。

■事務局

・次回は 10 月 18 日（土）の午前 9 時 30 分から、区役所本庁舎 20 階交流会場で開催する。

４．閉会

（以上）